

平成28年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼中学校

教諭 武田 裕光

1 研究主題

地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫

2 主題設定の理由

(1) 単元（題材）について

本単元では、中学校学習指導要領社会編公民的分野2-(3)-イに示されている、地方自治の仕組み、地方財政の仕組み、住民の自治への参加などの学習を通して、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることを目的とする。地域社会における住民の福祉の向上は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民が主体的に地方自治に参加することが大切である。すなわち、住民参加による住民自治が地方自治の根幹にある。地方自治への住民参加を可能とする権利や義務に関連させて、地方公共団体の政治がより住民に密接した仕組みであることを捉えさせたい。そして、地方財政の仕組みについて、身近な地方公共団体の歳入、歳出の内訳を広報等から具体的に取り上げ、限りある財源の配分について公正や効率の考え方にもとづいて捉えさせたい。その際、租税の意義と役割についておおまかな仕組みや特徴について触れ、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせて納税者としての自覚を養い、納税意識の高揚を図る。さらに学習のまとめとして、市民＝将来の納税者としての立場から効率や公正の視点で主体的に身近な地域の課題解決に取り組もうとする学習を通して、住民としての自治意識の基礎を育てたい。

(2) 生徒の地方財政や租税の理解の実態について

質問1 将来も岩沼市で生活することを望んでいるか。

どちらかという望んでいる 35%

どちらかという望んでいない 65%

質問2 平成28年度岩沼市の歳入はいくらだと思うか。

約1800万円 15人

約18億円 14人

約180億円 5人

約1800億円 0人

質問3 岩沼市はどのようなことに予算を使っていると思うか。

公共施設の建設・補修 12人

道路の修理 6人

復興 7人

公務員の給料 1人

分からない 8人

質問4 税を納めることは大切なことだと思うか。

思う 32人

理由：納税は義務だから	11人
自分たちの住んでいる所をより良くしたいから	15人
税でゴミ処理や公共物の修理を行ったりしているから	3人

思わない 2人

理由：ない方が良くと思ったから	2人
-----------------	----

以上のアンケートの結果から、クラスの3分の2の生徒はあまり地元に着着を持っていないとも感じられる結果が見えてきた。少子高齢化の進む中、岩沼市は若い世代が住みたいと思うまちづくりが今後の課題と捉えることができる。地方自治や地方財政の仕組みについては、生徒にとってほとんど分からないことばかりのようである。特に歳入の内訳では今年度、岩沼市は約180億円の歳入であるが、生徒の感覚としては約1800万円程度とっており、大きなズレがある。これは、税を納めることが義務であり、納めた税は住民の生活を良くするために使われているということは理解しているが、具体的な使いみちの知識が不十分なためであると考えられる。納税の義務を憲法の授業で学んだことから、税を納めることについてはほとんどの生徒が大切であると考えている。

(3) 指導にあたって

(2)の結果から、地方自治や地方財政、住民のもつ権利や義務を理解させ、住民参加による住民自治を、課題を解決する活動を通して考えさせたい。地方自治の理解のためには地方財政をしっかりと理解する必要があるため、市の広報（広報いわぬま2016年4月号）を活用して歳入や歳出のグラフから読み取り、関心を高めたい。その際、特に租税について税の種類や歴史に触れ、岩沼市の歳出の内訳から税が市民のために有効に使われていることを理解させ、納税意識の高揚を図りたいと考える。

アンケートから生徒の視点で見えてきた市の課題は、市の活性化であり、若い人が住みたいと思えるまちづくりと捉えることができる。そこで「新興住宅地の造成」という課題を仮定させて、生徒に市民＝納税者の立場で話し合う活動から、効率や公正など多角的な視点から物事を考えることの大切さに気付かせる。

3 研究目標

地方自治の学習を通して、租税の意義と役割を理解させる指導法を探る。

4 研究仮説

地方自治の学習を通して、その仕組みや財政、租税の使いみちを学べば、租税の意義や役割を理解できるだろう。

5 研究方法

- (1) 生徒に事前調査を実施し、実態を把握する。
- (2) 生徒の実態に基づき、「広報いわぬま」を活用した授業実践や租税のビデオ、課題解決学習を通して納税の意義や役割を理解させる授業実践を行う。

(3) 授業実践を通して、生徒の発言や記述内容から納税の意義や役割が理解できているか考察する。

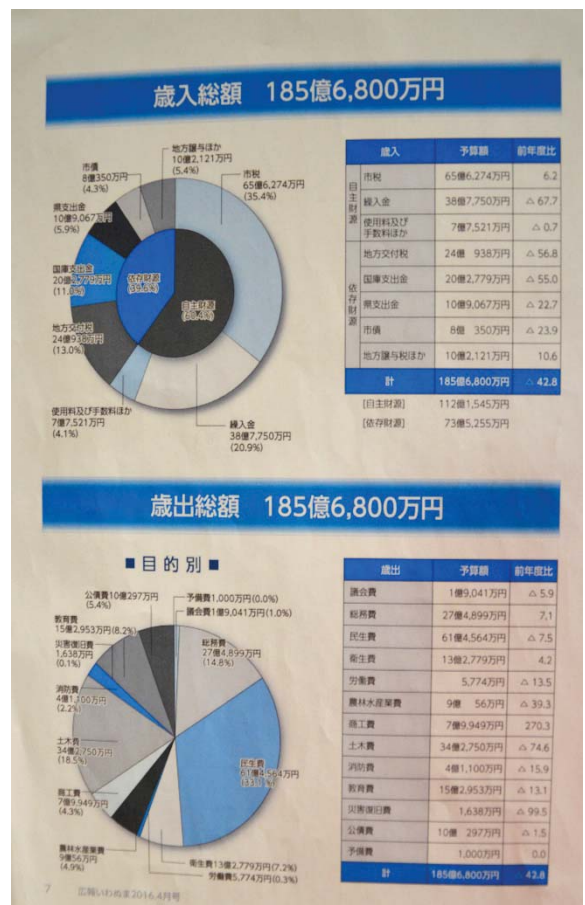
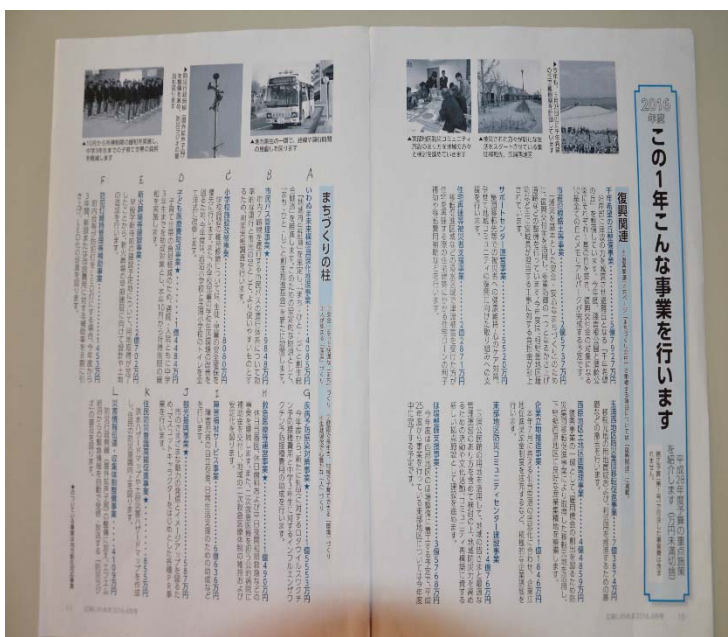
6 研究計画

2月10日(水)	租税教室
8月18日(木)	租税教育に関する座談会(岩沼市中央公民館)
9月20日(火)	事前調査(アンケート)
10月20日(木)	実践授業①広報いわぬまを活用し、地方自治に関心を持たせる
10月21日(金)	実践授業②地方自治の仕組みを理解させる
10月25日(火)	実践授業③地方財政の特色や課題を資料から読み取らせる
10月26日(水)	実践授業④税の種類や歴史、岩沼市の税の使い途を理解させ、税の役割や意義をDVD教材「アナザーワールド」を活用して考えさせる。
11月1日(火)	実践授業⑤新興住宅地建設を仮定した課題解決学習
11月9日(水)	租税教育に関する研究発表会(亶理中央公民館)

4 研究の概要

(1) 実践授業④

「広報いわぬま 2016. 4」を活用し、今年度の岩沼市の歳入、歳出を提示し、市税や地方交付税交付金、国庫支出金など、国税と比較をしながら歳入の内訳について説明した。また歳出について、今年度の市の重点政策や歳出項目を提示することによって、どのような使い方をしているか説明した。さらにDVD教材「アナザーワールド」を視聴させ、税がないとどのような世界になってしまうのか考えさせ、感想を書かせた。授業の前は37人のクラスのうち、26人が「税金なんてなければ良いのに」と考えていたのだが、学習を通して皆、税金の大切さに気付くことができた。



生徒の感想

- 学校に行けるのも、警察や消防署なども税金のおかげだと知ることができました。
- 税が国のために使われていることは知っていましたが、それが自分たちの生活にどれくらい必要なのかわかりました。
- 税金を払うのは嫌だなと思うけど、払わないと自分が困るんだとわかりました。
- 常に当たり前だと思っていることが、ほとんど税金からなっているんだと思った。



(2) 実践授業⑤

事前調査では将来も岩沼市に住み続けたいと考えている生徒は非常に少ないことが分かった。そこで、地方自治の単元のまとめとして、若い世代が住みたくなるまちづくりを考えるため、若い世代向けの「新興住宅地の造成」という課題を設定した。生徒は2つの造成地候補から、市民＝納税者の視点でお金（税金）や時間が無駄にならない案、多くの市民が納得できる案を話し合った。前時で今の暮らしを維持するために必要なものであることが分かった税金について、この学習活動を通して、自分たちの納めた税はどのように使われることが良いのかということまで考えさせることができた。さらに、地方自治に参加する姿勢として身近な地域の課題に対して、税金の使われ方や公正な結果の追求など複数の視点から自分のこととして積極的に解決しようとする姿勢が大切であることにも気付くことができた。

生徒の感想

- 他人事にせず、税金のことも含め、地方自治に少しでも貢献できるような大人になっていきたいと思った。
- 岩沼の政策や税の使われ方などを知り、理解を深めることが大切だと思いました。
- 地方自治と聞くとなんだか難しそうで疎遠になってしまいがちだけど、自分のために思い、積極的に市の政策や税のことについて知るべきだと思いました。
- 市の政策や税の使われ方に関心を持つことが第一で、それについて考え、一人の市民として行動していければ良いと思った。



6 研究の成果と課題

【 成果 】

さまざまな機会を捉えて租税教育を実施することが大切であると考え、今回は地方自治の学習の中に租税教育を位置づけるよう取り組んだ。地方自治という大きな学習課題の中で地方財政と関連させることで、カリキュラムの中に比較的無理なく租税教育を取り入れることができたと考ええる。特に実践授業④、⑤を通して、生徒が抽象的にルールとして「税は納めなければいけないもの」と考えていたことを、より具体的に、自分の暮らしや自分自身に身近なこととして考えられるように変容したと授業後の感想から感じた。身近な身のまわりの物事が税で維持されていること、地域に暮らす者として税の使い途にもっと関心を持つことなど、自分のこととして考えることができるようになったということができる。

【 課題 】

租税教育を地方自治の学習の中に位置付けるとともに、国の財政の学習で、再び租税について学習することで、さらに納税意識の高揚につなげることができると思う。各単元を見通して授業計画を立てていく中で、租税教育を意識的、計画的に配置する工夫をする必要がある。